

水産試験場成果発表課題 要約

1. 黒潮流路変動が水産資源に及ぼす影響～イセエビの場合～

(主任研究員 土居内龍)

黒潮の大蛇行期と非大蛇行期を含む期間に熊野灘南部で行ったイセエビ幼生（プエルルス）の採集結果について、黒潮離岸距離および2年後のイセエビ資源量指数と比較した。その結果、熊野灘南部では、黒潮が接岸するほど幼生の着底量が多くなり、2年後の資源量も多くなることが示唆された。

2. アシアカエビの養殖技術の開発

(副主査研究員 岩崎菜美)

アシアカエビ（標準和名：クマエビ）の養殖試験を行い、飼育密度、飼育水温および底砂の有無が成長や生残に与える影響を明らかにした。

また、長期の飼育試験（飼育密度 64 尾/m³、自然水温+底砂無）を行った結果、心化から約1年4か月で 44.8g（出荷サイズ 20g 以上）まで成長した。

3. 令和7年度の日高川および周辺海域におけるアユ仔稚魚出現状況について

(副主査研究員 松尾怜)

日高川の流下仔魚調査と同河口周辺の碎波帯調査を行った。令和7年の流下仔魚数は 6.1 億尾と推定され、平年よりもやや少なかった。碎波帯における仔稚魚の出現は低調であった。また、アユ仔稚魚の餌生物として重要なカラヌス目の出現割合が高いほど、翌年のアユ資源量が多くなる傾向が示された。